

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 25日

事業所名 ニコちゃん家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	17		十分な空間が確保できるよう調整している。	
	2	職員の配置数は適切である	16	1	・基準の配置に加え、利用者さんの状況により臨機応変に対応している。 ・1対1を基本に、定められた定員に加え、緊急時想定やゆとりある支援のためやや多めに配置されている。 ・シフトにより変動がある時がある	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	17		・通所内はバリアフリーになっており、車椅子、ストレッチャーの移動に支障ない。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	4	・1か月に2回の全体会議に加え、1～2か月に1回程度、通所会議を実施しモニタリング前の聞き取りやモニタリング後の報告など行っている。 ・シフトの関係で全員参加は難しい。	・会議に多く参加してほしいが、支援の関係で少数になる時もある。日時設定に工夫して調整していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15	2		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	16	1	ホームページに公表している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	6	11		一昨年より法人全体の活動に関しては第三者に助言等をいただく機会を設け始めたので、これを機に通所の業務改善に努めていきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	16	1	全体と個別の研修の機会を設けている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	17		定期的にあセスメントを行い、計画の見直しを行っている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11	6	重心の利用者さんに適したツールを作成したものを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	17		全体で共有、意見交換をしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	17		季節や行事、年齢に応じた活動を利用者さんの意見も取り入れて行っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12	5	休日は開所していないが長期休暇は来所者に応じている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	15	2	作成したものを実施しているときがある。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	2	SNSなどを活用している。送迎などの都合でできない日もある	シフトの関係で集合してはできないが、SNSなどで連絡を取り合い、確認するように工夫していきたい。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	6	共通のアプリにその日のうちに記録を残し、情報共有をしている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	16	1	連絡票に時系列で記録をとり、共通アプリに記録を残し、実施できている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	16	1		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	14	3		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	17		担当職員が参加するように調整している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	13	4	学校へのお迎えは行っていない。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	16	1	必ず主治医に指示書に記入していただき、緊急時連絡が取れるようにしている。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	15	2	見学に来ていただいて、活動を見てもらうようにしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	16	1	見学に来ていただいて、活動を見てもらうようにしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	3		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	12	5	イベントの際には交流できるよう計画している。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	9	8		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	17			
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	8	助言を行うことはあるが、プログラムとしてはまだ達成していない。	対象者が少ないため、プログラムはないが今後事例があった場合は検討していきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	17		契約時にお話している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	17		・相談や、悩み事など話しやすい雰囲気作りを努めている。 ・相談事などは居宅支援担当と共有し一緒に考えるようにしている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	11	6	・保護者会はないが、保護者が参加できるイベントなどを年に数回開催し、保護者同士が繋がれる機会を提供している。 ・自発的な活動を後押ししている。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	17		・相談や申し入れ、苦情などには迅速に対応するよう心掛けている。	
	34	定期的な会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	17		・事業報告書(nicochanism)を年に1回発行している。 ・HP、インスタなどを随時更新している。不定期なイベントなどはチラシやSNS等で随時発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	17		注意して取り扱いしている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	17		連絡票に記録する以外にも、必要時、電話や面談を行っている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	17		ニコフェスや演劇などのイベントの際には地域の皆さんを招待し、交流の場になるように企画実施している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	17		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応、感染対策についてはマニュアルを策定し、ファイルに保管しており職員はだれでも見れるようにしている。 ・防犯対策は行っているが、マニュアル化していない。 	新しい通所での防犯マニュアルを策定し、周知していきたい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17		年に数回、避難訓練または、避難・救出のシミュレーションを実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	17			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	17			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	15	2	アセスメントの段階で確認している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	17		<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットは全職員で振り返りを行っている。 ・事故が起きないためにはどうすればよいか、全職員で意見交換を行い、共有している。 	ヒヤリハットや事故が起きた後の連絡体制や対応の方法も、今後、全職員に周知していきたい。